

SAS・高血圧対策を学ぶ

OCHIS 適切管理で安全運行

NPO法人(特定非営利活動法人)ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長)は2月24日、安全と健康を推進する協議会(両輪会)を初めてリモートで行い、血圧管理とSAS(睡眠時無呼吸症候群)の対策による事故防止をテーマに学んだ。

両輪会代表の作本貞子副理事長は「これまで、事故防止や健康管理をテーマに様々な視点から学び、多くの事故事例も踏まえ、健康起因事故の防止に取り組んできた。今回はSASと高血圧の関連性を中心に取上げたい」と述べた。

その上で、SASと血圧測定の検証結果に基づき、起床時の血圧測定励行を呼び掛けた。また、運送業界では、今後、IT(情報技術)点呼やロボット点呼の普及が予測されることを踏まえ、点呼時のドライバーの身体情報収集が不足する懸念がある点を指摘、注意を呼び掛けた。

保健師が早期時高血圧、適切な血圧測定について説明。正しい測定と記録が健康起因事故を防ぐために重要である点を強調した。

続いて、事業者が事例発表。梅田運輸倉庫(井上真吾社長、大阪市福島区)の岩崎小夜子相談役は事故事例に基づく血圧指導、行方運輸(熊谷茂穂社長、茨城県行方市)の名雪馨・安全衛生推進室長がドライバーのSAS治療の必要性と課題についてそれぞれ報告した。

(小栗史和)